

3 4. 《利根川東遷、荒川西遷の、新たな謎解き 2 ～江戸川上流開削は、バイパス舟運路?!～》

利根川東遷、荒川西遷の最終仕上げは、徳川家光と家綱の2代の将軍に跨り、伊奈忠治も、55歳を過ぎた1650年前後に集中的に行われます。(注1)

1647年、江戸川の上流が開削されます。それまでの川筋(古利根川や庄内古川の上流部)の水害リスクは減少しますが、大工事に見合うメリットがあるかは疑問ですし、また利根川を東遷する際に不可欠な工事とは考えられません。実に不可解な工事です。

実は同年、荒川に平行して流れる新河岸川を使い、川越・江戸間の舟運が本格化します。これを実現した川越藩主は、松平信綱であり、老中でもありました。また大老として、前の川越藩主の酒井忠勝が君臨。つまり関東全域の水運強化策を、幕府として打ち出していたと考えられます。(注2)

そこで、江戸川上流開削は、それまでの川筋が、沿川の農業開発に伴い堰などができて舟運に適さなくなり、その区間をバイパスしたと考えれば、疑問も氷解します。つまり、上野国(群馬県)や下野国(栃木県)と江戸間の物流時間を短縮し、かつ洪水を流下させる多目的河川を作ったということです。(注3)

そして1654年、赤堀川が通水し、ようやく利根川が銚子のほうに流れて東遷が完結。(注4)ここに、江戸と関東の国々が、内航路でしっかり結ばれました。東北地方とも、銚子港で積み替え、江戸川使って江戸に入る東回り航路が確立しました。

注1：利根川東遷・荒川西遷など関係年表

- 1630 年（寛永 7）：小貝川付け替え、新綾瀬川開削
- 1647 年（正保 4）：江戸川上流部開削
- 1653 年（承応 2）：玉川上水築造
- 1654 年（承応 3）：赤堀川の通水
- 1665 年（寛文 5）：権現堂川締め切り
- 1666 年（寛文 6）：新利根川の開削・締め切り
- 1671 年（寛文 11）：河村瑞賢が房総半島を回る東回り航路開拓
- 1675 年（延宝 3）：瓦曽根溜井を水源とする亀有上水が設置
- 1676 年（延宝 4）：将監川開削・締め切り

注2：伊奈忠治（生没年：1592－1653 年）：赤堀川通水の前年に死去。

酒井忠勝（生没年：1587－1662 年）、松平信綱（生没年：1596－1662 年）

注3：舟運は帆のついた平底舟であり、風を受けて動くにしても人力で動かすにしても、河川は直線の方が望ましいと思われます。新河岸川では、舟運のため流路を蛇行させたという説がありますが、それは、伊佐沼（水源）と川に標高差があり、なだらかに接続するためのやむを得ざる措置だったと考えます。

注4：赤堀川通水は、現利根川下流域の水害リスクは高めますが、低水は増加させます。関東郡代伊奈家は、現利根川下流域でも治水対策を行っており、すでに領民たちの信頼を得ていたと考えます。ちなみに、当時の老中たちに地縁のある者はおらず、赤堀川通水にストップをかけるすべもありませんでした、・・・。

写真は、①利根川東遷における1650年前後の工事

(http://homepage2.nifty.com/.../keiido_tonegawa.html の図に細見が赤丸で示す)、②利根川高瀬舟（千葉県立中央博物館大利根分館HPより）

①

【利根川東遷 精密全体地図】



②

